

# SUAC

No.50

1965年度  
春山合宿計画書

## 目次

- 1 合宿にあたり ..... P.1
- 2 計画概要 ..... P.2
- 3 概急図と行動概要 ..... P.3
- 4 装備 ..... P.4
- 5 食糧 ..... P.6
- 6 会計 ..... P.7
- 7 気象 ..... P.7
- 8 合宿のための事故防止対策 ..... P.8
- 9 部員名簿 ..... P.9
- 10 SUAC NEWS ..... P.10

1966.3

信州大学山岳会上田山岳部

# 合宿のあたり

## 1.1 “ひとこと”

C.L 岡村 紀雄

春山計画については剣岳、南アルプス、その他種々考えていた訳であるが入山できる人数・日時など考え、全面的に変更し、戸隠・高森山の縦走及び西岳東面のバリエーションルートもゆらぐこととした。今年の戸隠は雪が少なかったため、バリエーションの登攀はより困難となることが予想されるが、無理をしないでじっくり構える予定である。

## 1.2 “この合宿のネライ”

S.L 佐々木 史郎

この合宿を成功させる為にはどうしたらよいか。それは先ずこの合宿の持つ意義を正しく把握認識することであろう。現在、我が部には様々な欠陥があると思われる。部員の部の現状に対する思惟の甘さ、リーダーシップの不徹底しからむメンバーシップの未熟さ等々、このような山登りの根本たる基盤が無秩序化、無組織化されつつあるところに問題がある。そこで、その失われつつある我が部の組織面と行動面のルールを、もう一度振り返り、み直す必要があるというのが今合宿のネライともいえよう。しかしさらに技術面や記録的価値を重視する方向に走らず、かつ、その向上をも阻むところの絶壁を突破することの重大さを、その価値を、我々、一人一人が真剣に考え、みるべきである。そして登山は安全第一主義であらねばならない。又我々はそう努めなければならぬ。“山登りの安全性”の問題に直面したとき、注意しねばならない点には、そういう初歩的段階にあるのではなからうか。C.Lの言葉の中にみられる合宿地変更理由の一つを取り上げてみると、前記の諸問題を解決するための一策として“出かける日数多くの部員が参加し(④毎年春合宿参加者が減る)仲内の連帯感を養おうとする配慮であったことを忘れてはならない。この合宿も、何々バラバラの力ではおぼろり成し得ない性質のものがあるとはいうまでもない。チームワークと組み合わせた力とがマッチしてはじめて成功へと導かれるものなのである。次に掲げる合宿のための目的は、そういう観点にたてられた次第である。合宿にあって、最も大切な問題は、その戸の奥に隠された元の意味を熱意をもって研明することである。これは、現在我々に課せられた使命についても、あながち間違いないと言いかねない。我々が好んでやる山登りを、より安全に、しかも、相互理解の精神をもって協力し、楽しいものにしていきたいと思う。目下、我が部のホープ一年生の手で、合宿の準備は、いまだ

かつて類をかなり順調な運びをみせている。このまゝ、この3軸から成る一台の機関車。  
"SUAC号"に、更に4軸、8ヶの車輪を補強して、永遠に脱線する事の無いよう、一本  
のレールの上をなめらかに完走させてゆきたいと思う。

### 1.3. 合宿への取り組み方

— 合宿成功のために —

監督 森田 稻吉郎  
O.B

今春山合宿を実施するに当たって、どう取り組まなければならないか、部の分析から来る  
諸問題とどのように結びつけて行かなければならないか、その一つの方法論を不十分では  
あるが簡単に述べてみた。

今合宿の趣旨は具体的に上げると、"全員のものとなる、全員が参加する合理的合宿" "リ  
ーダーシップ、メンバーシップの欠陥を今合宿を通して意識的に克服する" "山をやる、創造性  
のある山をやる" 等の3点であると思う。これらの3点は、現在の部の主な3つの欠陥と密  
接に結びついている。即ち、その解決策として打ち出されたものである。部員各自は正しく従える  
必要がある。その欠陥の3点とは、部員諸君も知らぬと思うが、次の様のものである。

① リーダーシップ and メンバーシップの弱さ ② 部員の家庭事情、学業、経済的理由、他の任  
務から来る従来の山行への困難性 ③ 技術中心におちこち易い部活動の一面性、創造性  
の欠如。

以上のような趣旨と部の欠陥を如何に正しく関係づけるかは合宿への成功度の評価とな  
り具体的に表わされてくるのである。(もちろん、ルートが完登可否と関係するが) とは、次に  
それを実践的にはどのような方針を出して行ったら良いかの問題点であるが、これは非常に  
難しい。相当の経験と弁証法的思考方法が当然必要である。しかし、とにかく、その最善  
の方法は全員がミーティングの中で、全体のものとして各自、個々バラバラの智を結集、協議以  
外にはない。そして全員が意識的に解決しようという細かな注意力を絶対に持つべきである。

戸隠東面の岩稜は殆んど未開拓の分野である。特に本院ダイト外麓根はその  
困難度、容相と、その登攀的価値は北アノ一流の岩壁にも決してひりて取らぬと思  
う。全員の団結で何とか本院ダイトの完登を我々の手で果たして欲しい。  
(1966.3.19 喫茶'野'にて)

## 2. 計画概要

### 2.1. 場所

戸隠山塊 西岳東面の岩場 及び 高寺山周

## 2.2. 期間

1966年 3月22日 ~ 4月4日 (計 14日間)

## 2.3. 目的

2.3.1. リーダーシップ・メンバーシップの確立強化

2.3.2. 積雪期登山技術一般の習得

2.3.3. 戸隠西岳東面の実践開拓(記録的価値)

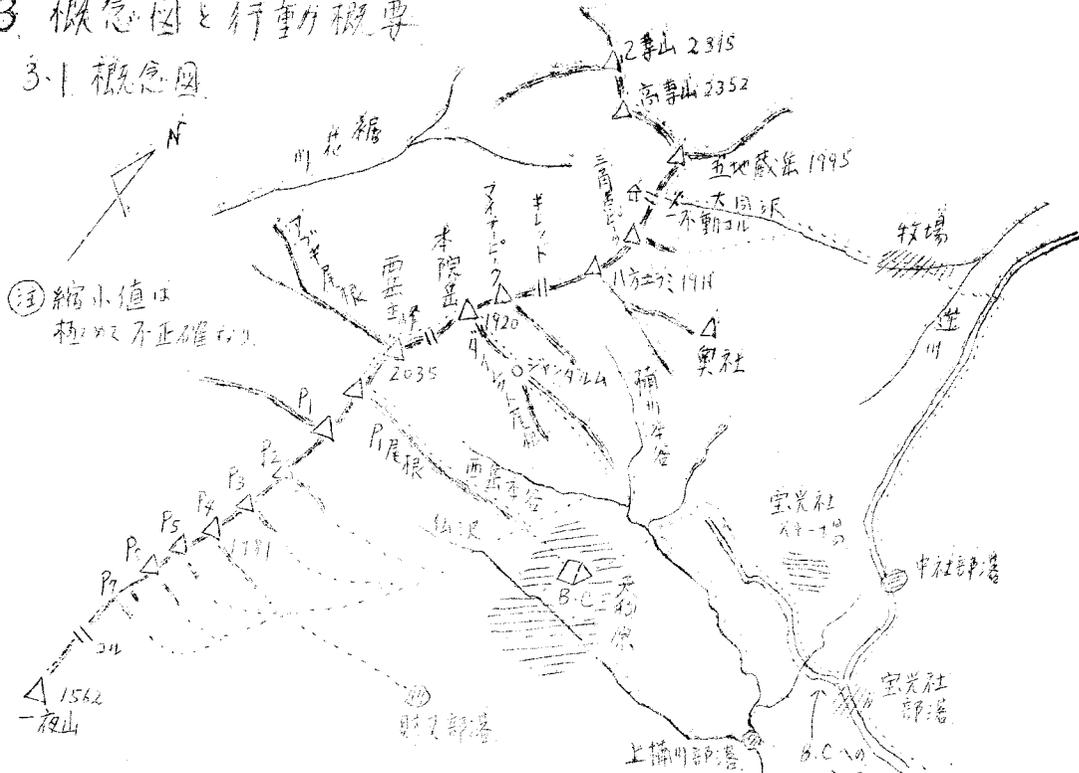
2.3.4. 5月合宿にそなえる練成

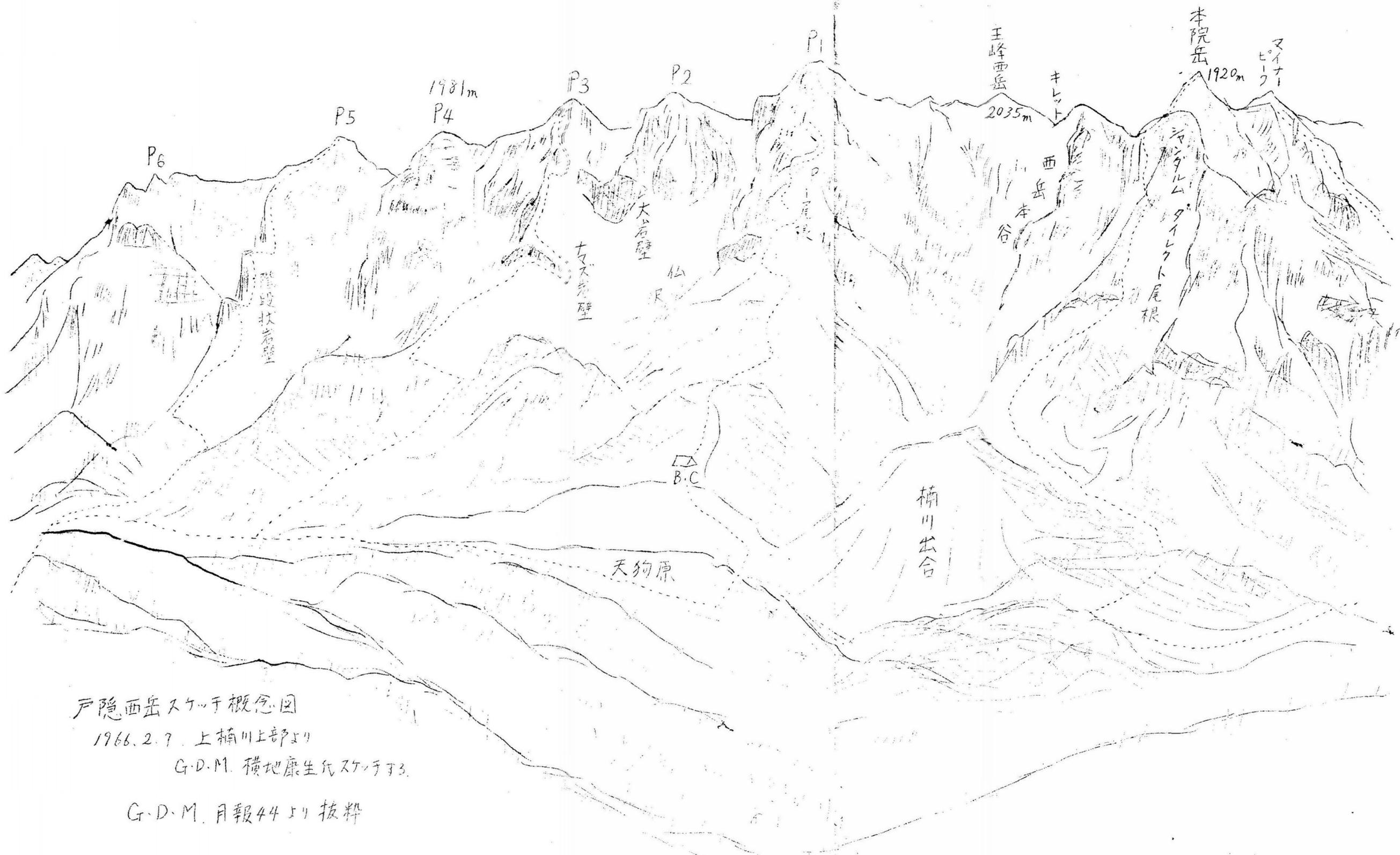
## 2.4. Member 役割と入山日数

C.L. 記録	岡村 紀 雄	3年	3/22	~	4/4	
S.L. 気象 (準備全般)	佐々木 史 郎	2年	3/27	~	4/2	
装備全般	真 良 明	1年	3/22	~	3/26	3/29 ~ 4/4
食 糧	河 原 洋	1年	3/22	~	4/4	
会計・食料	杉 本 敏 広	1年	3/22	~	3/26	3/28 ~ 4/4
	小 宮 良 雄	4年	3/28	~	3/31	
	森 田 稻 吉 郎	監督 OB	3/29	~	4/3	

## 3. 概念図と行動の概要

### 3.1. 概念図





戸隠西岳スケッチ概念図

1966.2.7. 上楠川上部より

G.D.M. 横地康生氏スケッチより

G.D.M. 月報44より抜粋

## 2. 行動予定と登攀計画

予定のメンバー

- $\frac{3}{2}$  → 奥社  
 $\frac{3}{3}$  → 一不動コル  
 $\frac{3}{4}$  ⇄ 高専山 → 奥社
- } 高専山往復 (新人討称)  
 (L 岡村, 河原, 栗, 杉本)
- $\frac{3}{25}$  予備 } 余った場合 { 表山三角点尾根の偵察  
 $\frac{3}{26}$  予備 } { 天狗原にB.C建設, 偵察試登
- $\frac{3}{27}$  宝光社集結 (A.M 10:00) → 楠川出合 → 天狗原B.C設置, 偵察
- $\frac{3}{28}$  P1尾根スノーワーク (森田, 佐々木), ダイレクト偵察試登 (岡村, 河原)
- $\frac{3}{29}$  } ダイレクト尾根 Attack (岡村, 佐々木), ダイレクト support (小宮, 杉本)  
 $\frac{3}{30}$  } 一ヒウキの予定であるか? P1尾根 support (森田, 河原)
- $\frac{3}{31}$  P2~P4 偵察 (未定), P5~P7 偵察 (未定)
- $\frac{4}{1}$  } P2~P7 移・リフ・水かき登攀 (未定)  
 $\frac{4}{2}$  } 但し, Attackは One partyのみ行う。なお, 水かきかどうか今のは不明  
 $\frac{4}{3}$  }
- $\frac{4}{4}$  下山

## 3. 行動のあらまし

前半は新人を主体として一不動から高専山までの縦走, 後半は西岳東面定着合宿, B.Cは天狗原へ建設, P1尾根及びダイレクト尾根の偵察後, 本院ダイレクト尾根のAttackにかかる。P2~P7各稜の偵察状況により何本かのAttackを試みる。登攀下山用ルートにはP1尾根を使い, ときにはsupport隊を待機させる。もし登攀がむずかしい退却の場合は, その稜について充分の偵察を行い, B.Cに下山する。なお, Attack隊とsupport隊はトランシーバーで定時交信し相互の安全を確認し, 万全を期す。P1尾根にはスノーワーク, ラッセルワークとsupport隊に徹底させる。

## 装備

装備については冬山の時, ほぼ完備にあたり, 登攀用具以外は9分9厘。従来通り。今回は経済的の面, 距離的に近いという点から, 非合理的ではあるが多少の重装備を取る嫌いは, かつぬいどにした。といても決して不必要なものまで持つべきではない事はしようがない。とにかく実用的であり, 安全性さえ保障されて

おれは... 4.1 装備配分表

... (S.S)

	品名	用・他	数	重	荷上		品名	用・他	数	重	荷上
雨路営用具	テント	冬4人用・T型	1	9.5	先	登山用具	ワケル	740 白		3.5	先
	シ	準備用	1	11.1	後		ワケル	赤		3.5	後
	ベルト	(A) new	1	6.3	先		ワケル	赤	1	2.8	先
	スコップ	(B)	1	1.6	後		ワケル	赤	1	2.4	後
	ナタ	(A) new	1	1.5	先		ワケル	赤	1	3.0	先
	ブラス	(B)	1	1.1	後		ワケル	赤	1	2.4	後
	ノコギリ	根切り	1	1.0	先		ハマー		4		
	シート	両刃	2		後		ハンセン		9		
	張紐	エニロン	1		先		ハンセン		3		
		女用	2		後		ハンセン		25		
炊事用具	ラジオ	郵所用	2	2.8	先	ハンセン	麻 2本	3		1.2	
	コックル	森用(角)	1	1.0	後	ハンセン		5			
	庖丁	角型	1	1.0	先	ハンセン		7			
	ベニヤ板	マチ付2	7		後	ハンセン		2			
	木皿	コックル付2	1		先	ハンセン		27			
	しゃもじ	ラジオ台3	1		後	ハンセン		8			
	食器	7x2	14		先	ハンセン		7			
	茶碗	紅茶用	7		後	ハンセン		2			
	かん切		1		先	ハンセン		3			
	ホリケン		2		後	ハンセン		1			
テルモス		1	1.0	先	ハンセン		1				
マントル		3		後	ハンセン		1				
ポット		1		先	ハンセン		1				
740ハン		1	0.8	後	ハンセン		1				

4.2 燃料概略

石油 (1日1人当り 0.25L) 22L (18L 重 / 4L 軽) ... 高聳山隊 ... 2L 重 / (ラジオに満タン) ... 中型 3ヶ ... 中型 1ヶ ... 小型 7ヶ ... 太 10本 ... 太 5本 ... 細 8本

4.3 医療について

冬山合宿の計画に多少薬品量を増したため、使用薬品などのkatakは報告書にまとめる。先づ「ニニ」は必要と思われるものにのみ、各自のケースに入れておくから省略する。

A-Attack 隊のための装備メモ (上の方予定)

ムト(A-1), エアマット(1) シェラフ(2, ?), ナイフ(1-2), 食器(1), 缶, カンキリ(1, ?)  
 ルイス(1), プランバ-1(1) サドル(チロコ 40m-1), 針灸用7Lモト(20m-1) 捨てワロ  
 杖用) 赤旗(5), ホルト(5) ショッキングセット(1), ドアミ(3, ?), トランシーバー(1)  
 メラ(カラ-1), メラ(中2) ローソク(4~6) その他

食糧

献立表

	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4
割当比	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
岡村 3	←-----→													
依々木 1.5	←-----→													
栗 3	←-----→													
杉本 3	←-----→													
河原 3	←-----→													
小宮 0.7	←-----→													
森田 2.4	←-----→													
	←-----→													
	4	3	4	5	7	6	5							
	昼	昼夜	昼夜	昼夜	昼夜	昼夜	昼	昼夜	昼夜	昼				
献	朝食	各日	パン											
並	昼食	夕食	パン											
	夕食	夕食	パン											

◎その内容

B <sub>1</sub>	B <sub>2</sub>	B <sub>3</sub>	L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	D <sub>1</sub>	D <sub>2</sub>	D <sub>3</sub>	D <sub>4</sub>	D <sub>5</sub>
ラーメン	うどん	モテ			カレー	サラダ	味噌汁	五目	天ぷら
トン脂	トン脂	トン脂	パン	パン	ワケシ	マカニ	ワケシ	玉ねぎ	玉ねぎ
アタ肉	アタ肉	アタ肉	パン	パン	人参	人参	人参	人参	人参
切干	切干	切干			人参	人参	人参	人参	人参
ホーレン	ホーレン	ホーレン			人参	人参	人参	人参	人参
ソーセージ	ソーセージ	ソーセージ			人参	人参	人参	人参	人参
シウ	シウ	シウ			人参	人参	人参	人参	人参

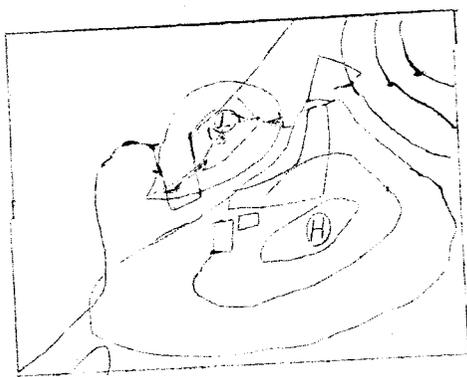
5.2. 今合宿に向けて

食料はエネルギーの源であり、又山における楽しみの半分は食料にあるといえる。その意味において部員の希望や要求を入れ、食料係でも考え多くいたと思うが色々な山岳食糧の条件や制約を念頭におきながら、合宿地が場所だけに、重量制限には余り余裕が無く、ゴウバイにしようというわけの約束である。果たして、どんなモノが飛び出す（たかが知れたもの）であろうか。今から楽しみにしている。最近、体重が減ったと思う奴はよく食べよきラッセル車となることだ。(S.S.)

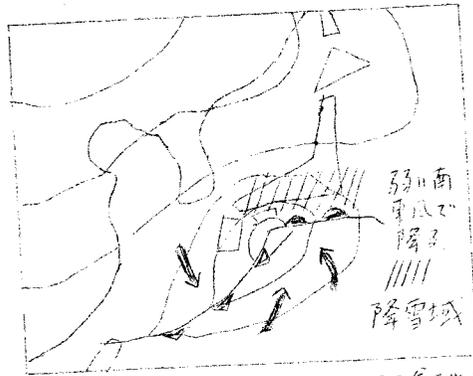
6. 会計 (但し、全期間参加者を単位にしておく話)

合宿装備費と雑費とで、700円。食料費として2,500円、合計3,200円を集めさせてあるが、準備期間が短かったため(戸隠をやるポイントに確定したのが19日の偵察後であったから)に、今後と水筒の経費がいくらか不定のため、詳細には記せず。報告書にまわす。(S.S.)

7. "三月のお山は、どんなお天気?" 一気象一



① 日本海低気圧  
(天気はよい)  
 ◦ 強い南風につき気温上昇、初夏のじく暖かしく→+9℃  
 ◦ 通過するや、又北風に変わり曇り。  
 ◦ +9℃暴風発生地域 → ②の中心通過の北日本付近に多し。→ 一般には天気良く、雨雪地帯は②の中心付近ナリ。  
 ◦ 南風は徐々に強まり天気悪化度ゆりし、さかしくユダするにちか水。特に、日本海②の強くおるときは!

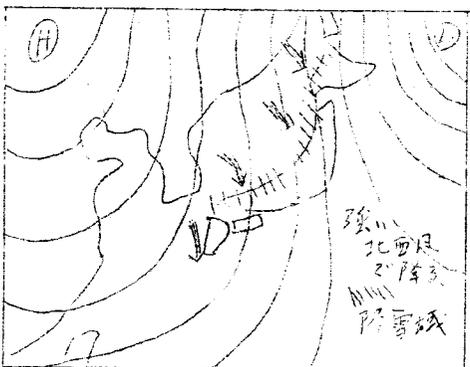


② 南岸低気圧  
(低気圧の前で降り)  
 ◦ 沖ノフ近海、台湾北方で発生 → 北東進 → 本州南岸 → 東を洋上。  
 ◦ 3月以降降雪少く、富士、南に夕量おとすナリ。  
 ◦ 陸に近い沿岸の平地には雨、  
 ◦ 八丈島と島島の内を通ると平地で雪 → 高山の雪。  
 ◦ 低気圧の東側(前面)で降り、通過すると、その西側に入ると晴れるに多し。(日本海岸の山でけま→けらぬ)

◦ 3,000m上空: 5.5g (0℃、1kg中に含まれる水蒸気) 1.7g (-20℃) → 高山では温度が高いコノ②が通るときは、モンスーンの時より降雪多し。  
 ◦ 風速は弱い → 3月の上層は面よりの風に打ち、②の東面は東よりの風で共にうらげり。  
 ◦ +9℃暴風は3000m内外の山に多し。



二つ玉低気圧  
 南岸は低気圧の前、日本海側の山はあて降る。  
 ①が日本海に1つ、本州南岸に1つあり→3月に44日  
 進行速度遅し、本州の平野部山岳部に一様に雨  
 雪を降らすなり→①と②の性質を有す。  
 ○すくくすくから油断なるめ。



④ モンスーン型  
 (低気圧の後で降る)  
 ○寒波のしゅう来→1月に2回、3月に4回  
 ○5月で西(④)となり北西風が吹き、山は月雪に  
 なるに相当あり  
 ↓  
 大量水の発生が3回あり  
 従って大陸の④の張り出しがよいに充分注意

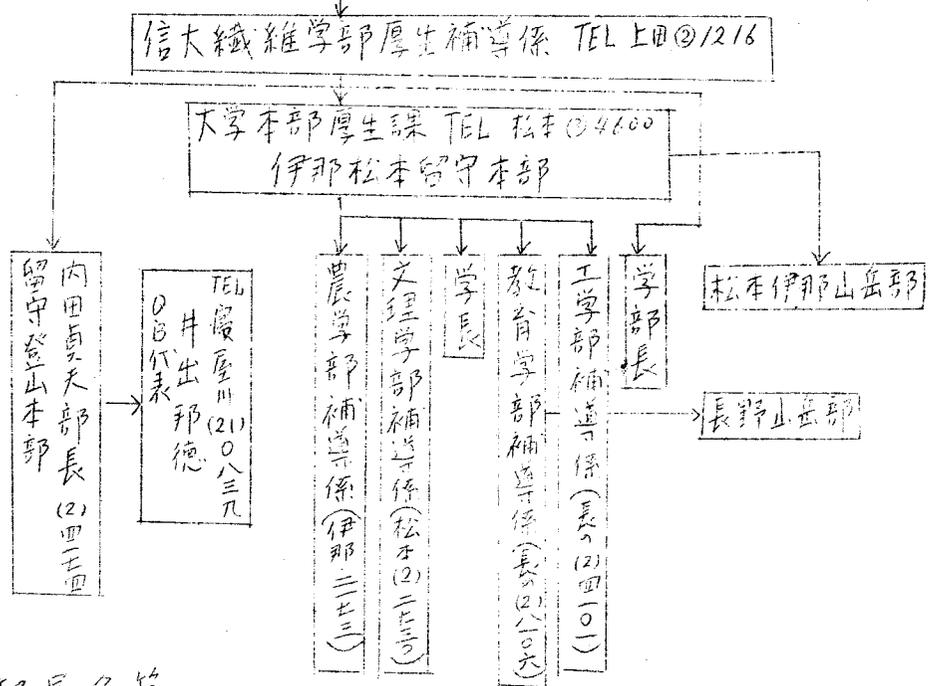
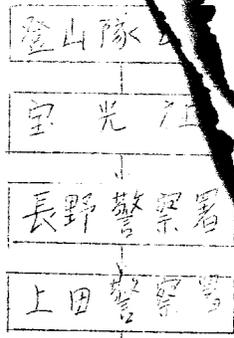
⑤ 南岸低気圧の雪と季節風の雪の複合型

- 長時間の風雪、降雪のため凍死、打撲、転倒が頻りに発生す。
- 月向不明とたるとあり→南岸低気圧のため弱い東よりの風が吹く。
- 気温が割合高いので降雪が頻りにある。

8. 合宿のための事故防止対策

8.1. 連絡先

- 登山隊: 宝光社 ←2時間→ B.C.
- 本部: 信大繊維学部 厚生補導係 Tel. 上田(2)1216  
(上田市常入 500)
- 信州大学山岳会連絡先: 信大本部 厚生補導課 Tel. 松本(3)4600  
(松本市旭町)
- 残留部員: 吉川守 (紙4)  
下宿: 上田市諏訪形 923の1 赤羽福次郎方  
(自宅: 愛知県海部郡八南村大字立石)
- O.B.会: 大府府寝屋川市仁和寺高分子寮 井志邦純
- 部長: 内田貞夫 (繊維機械学科 助教授)  
上田市上川原 柳町 1762 Tel. 上田(2)4174



9. 部員名簿

岡村 紀雄 (22才)	A-B型	3年	長野市相木東 348-02. (暉紀)
佐々木 史郎 (21才)	B型	2年	南佐久郡八千穂村 923 (一)
栗 良明 (20才)	B型	1年	長野市大豆島松園 7552 (順作)
河原 洋 (21才)	A-B型	1年	愛知県宝飯郡依田町平野新屋敷49 (太郎)
杉本 敏宏 (19才)	?	1年	新潟県高田市東山町5丁目141号地 (秀村)
永宮 英雄 (30)	A型	4年	郡内区馬区中町 2-12 尾. (991) 9462
...	?	...	...

### 10.1 "上小"の準備と結成

校団準備金の前々回より下成、以て15日に結成準備金の前々回より身付的準備金を正式に認め、4月17日に協議会にて準備金の運用と管理の委託上の決定、5月中旬には準備金は完了。

#### "長野労働連盟結成の動き"

5月中旬に結成を3月12日の長野県上小労山会が中心に、長野労働連盟委員長は今井正吉長野労働山会長。

#### "我が部の労働への態度"

労働は多くその立場に立って正しい登山運動です。長い意味で協力に消極的部員も居ると思うが相互の交流の中で解決できると思う。とにかく我々の部の上小労働への影響は今年度の準備結成で非常に大きくなってきています。結成への協働と結成後は一丸となって労働を遂行するつもりです。

### 10.2 "目下スライド"整理中/O.B諸氏の協力を頼む！

我々の周辺にせよ新入員(カブタン、莫多正法 etc)から今秋の学部祭、その他行事を成功させる為に、早急に、目下スライドを(お前さん)から取りたく。二枚のスライド一枚一枚に、我が部の経緯と下成、労働への指針が記してある。これを整理した上で、我々部員、貴重な参考資料とするにしたい。より多くの登山愛好者との交流や山への感心が高め、微弱ながらも社会への寄与発展につくしたり、又、それが、これから我々に課せられた責務であり、我々も、そうする事から、何かを学び取ってゆかねばならぬ。

かような趣旨で、目下スライドを整理して下さるご協力をお願いしております。この日 O.B 諸氏が卒業と同時に手元を持って下さり、今日に至ると思っております。手元に保管届いた方は是非、我々に送って下さり、お送り下さい。

### 10.3 まだ準備はありますが紙面の都合上、今日はこれで打ち切ります。

#### 「編集後記」

乱文乱筆にてお礼致し。O.B、O.Cの皆さんへ何かお礼を言いたい。お話し、お話を聞かせて下さる機会を下さり、台詞討論や新入員月報を下さるお話を致しお礼申し上げます。